

さつまいも土壤病害対策として、

効果的な土壤消毒を実践しよう

園芸振興協議会南薩支部
サツマイモ専門部会

つる割病などの土壤病害の対策として、クロルピクリンによる土壤消毒をより効果的に実施するために、以下のポイントに留意しましょう。

1 土壤消毒をする前に ～残さを「残さない」対策～

基腐病やつる割病等の伝染源になる発病株の茎葉やいもの残さ（写真1、2）は、土壤消毒の効果を下げます。

また、クロルピクリンによる畝内消毒は、初期の発病抑制には効果的ですが畝内のみが消毒されるため、生育後半は、畝間の残さが伸びてくる茎葉と通路が接触することにより発病してしまいます。また、残さの多いほ場では畝内消毒を行っても十分に消毒ができないため、発病する可能性があります。

まずは、消毒までにほ場の残さをなくしましょう。

残さを「残さない」ための対策をチェック

- 収穫後、速やかに残さをすき込む（目安：収穫後、10日以内）
- 次期作まで、できるかぎり複数回耕うんを繰り返す
春先にも土壤水分を保持した状態で耕うんを行うなど



写真1 作物残さの残るほ場（2月）



写真2 土壤消毒前に残っていた残さ（4月）

2 土壤消毒を効果的に実践しよう

- (1) 消毒は、土壤が適正な水分の状態で行う。
(軽く握って割れ目ができる程度)

(2) 土壤消毒は、地温 15℃以上を目安に行う。

土壤消毒は、地温 15℃以上を確保して(マルチ被覆で 3 月上旬)、適切な土壤水分で行いましょう。やむを得ず、地温が 7~15℃の時に処理する場合には、被覆期間を 30 日程度確保しましょう。7℃以下では、薬剤が拡散せず効果が低下します。



図 3~6 月の畝内の地温

(3) 正しい使用方法で安全で効果的に使用する。

必ずシート (ポリフィルム, ビニル) で被覆しましょう。

正しい土壤消毒方法は QR コードを読み込んでチェック!



⇒クロルピクリン
の使い方



⇒ダゾメット(バスアミド微粒
剤, ガスタード微粒剤)の
使い方(本ぽ)



⇒南薩地域振興局 HP
詳細な病害対策はこちら

参考: 三井化学アグロ株式会社 HP・アグロカネショウ株式会社 youtube 動画

3 土壤消毒が終わったら ~次の病害対策 実践ポイント~

(1) できるだけ、早い作型で逃げ切りを

収穫時期の早い作型では、基腐病の被害が少ないです。

基腐病の発生が心配されるほ場では、早植えを行いましょう。

(2) 苗消毒は、基腐病・つる割病対策に
必須の防除対策です。初期の発病抑制
に有効なため、必ず実施しまし
ょう。

また、採苗するハサミは、ライター
等で定期的に消毒しましょう。



ベンレート水和剤による苗の消毒効果

(3) ほ場に水溜まりを作らないようにしよう

基腐病は、水が溜まる箇所から発生しやすいため、隣接ほ場等からの流入水の侵入防止や畝間の排水対策を実践しましょう。また、敷きわら、排水ますの設置を行い、水の流れを緩やかにして土壤の流出を軽減します。



写真3 流入水の侵入防止



写真4 表面排水対策



写真5 排水口の設置